

シシャモ増養殖用大型種苗生産および親魚養成に向けた飼育技術の開発 (経常研究：R4-R8)

協力機関：鶴川漁業協同組合、ひだか漁業協同組合、北海道栽培漁業振興公社、栽培水産試験場・調査研究部

研究の背景・目的

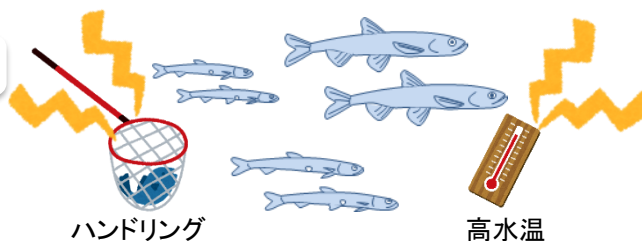
- シシャモは北海道太平洋沿岸にしか分布しない希少な魚類であり、地域特産の重要な漁獲対象資源でもある。
- 資源管理を実践しているが、不漁が頻発している。さらに絶滅のおそれのある地域個体群として環境省および北海道レッドリストにリストアップされており、資源管理の取り組みに加えて増殖技術の開発が求められている。
- 放流効果を高めるため、シシャモ仔稚魚を一定期間飼育後海中へ放流する技術開発に関する研究要望がある。また、孵化放流事業に使用するための親魚確保が課題となっている。
- 種苗生産から親魚養成までの飼育技術が確立できれば、地域の要望に応じたサイズの種苗放流が可能になり、種苗生産用親魚の親魚も確保できる。また、養殖への展開も考えられる。

研究の目的：放流用種苗生産、ふ化放流事業のための親魚養成、および養殖に向けたシシャモ飼育技術を確立する。

研究内容

① 放流を見据えたサイズの検討

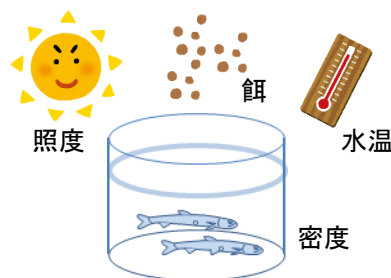
- サイズ毎のハンドリング耐性試験
- サイズ毎の高水温耐性試験



放流可能な
サイズは？
時期は？

② 種苗生産工程の検討

- 仔稚魚期における飼育水温、照度条件、給餌条件、飼育密度等の検討
- 性比の確認



最適な飼育
方法は？

③ 養殖も視野に入れた成魚飼育技術の開発

- 成魚期における飼育水温
- 摂餌や成長を促進する光条件
- 日長と水温の操作による成熟制御要因の推定



最適な飼育方法は？
成熟制御要因は？

期待される成果

放流作業に耐えうる種苗サイズが明らかになるとともに、その飼育技術が開発される。
大型種苗および成魚の飼育技術が開発される。

研究成果の活用策

放流による資源増大へのニーズに対し、種苗の作製方法や水温を踏まえた放流時期を提示することができる。
増養殖事業に用いる親魚の確保および養殖を検討するための基礎資料となる。